

大学発イノベーション分科会セッション

◆ アグリビジネスと知財 ◆

【講演者】

モデレーター・司会

松村 啓氏

(特許業務法人 志賀国際特許事務所)

講演者

杉中 淳氏

(農林水産省 大臣官房 予算課長 / 前 農林水産省 食料産業局 知的財産課長)

伊藤 博之氏

(近畿大学リエゾンセンター (KLC : Kindai University Liaison Center)

コーディネーター)

【内 容】

「知的財産推進計画2018」において農林水産分野での知的財産政策が言及されるなど産学連携の推進によるイノベーション創出に関する社会的期待は大きい。一方で当該分野の入り口（研究）から出口（事業化）まで全般に渡る知財マネジメントに関する知見の集積は十分とか言い難い。とくに大学に関してはこれまで工学系研究の支援実績が種だったため、新しい分野であるアグリビジネスに対応した研究支援・産学連携システムは重要な課題の1つである。このような現状認識のもと、今回のセッションは、農林水産分野における知的財産政策の概説とその背景についての政策担当者による説明、およびアグリビジネスにおいて事業化まで成功した大学発の事例として近畿大学の事例について講演者から話題を提供、それらを踏まえてアグリビジネス分野における研究戦略、知財戦略、事業化戦略について参加者を交えて議論したい。

以 上

大学発イノベーション分科会セッション

◆ アグリビジネスと知財 ◆

【略 歴】

松村 啓氏

弁護士・弁理士。博士課程（理学）修了後、電機メーカーで基礎研究に従事する。法科大学院修了後、現職に至る。知的財産の権利化や活用に高い関心を有する。

杉中 淳氏

農林水産省大臣官房予算課長。東京大学法学部卒。1990 年 農林水産省入省。大臣官房企画評価課上席企画官、欧州連合日本政府代表部参事官、外務省国際協力局地球環境課長、農林水産省漁政部加工流通課長、食料産業局知的財産課長を経て現職。

伊藤 博之氏

1960 年生。長年総合エレクトロニクスメーカーで国家プロジェクト（AI）、プロセッサ開発等に従事し、その間、特許国内出願 56 件（登録 15 件）、外国出願 17 件（登録 3 件）、採択論文：IEEE ISSCC Feb-2001, Feb-2002（アジア地区最優秀論文賞。2013 年より現職にて主に、産学連携業務に従事し、技術相談、知財管理・契約関係を担当。また、現在、技術研究組合次世代 3D 積層造形技術総合開発機構（TRAFAM）の知財審議会委員を兼務。自身の登録特許の特記事項としては、Microsoft Office 等に GUI として必須機能となっている特許 1995905 号や、データ管理の特許第 2104103 号などがある。

以 上